

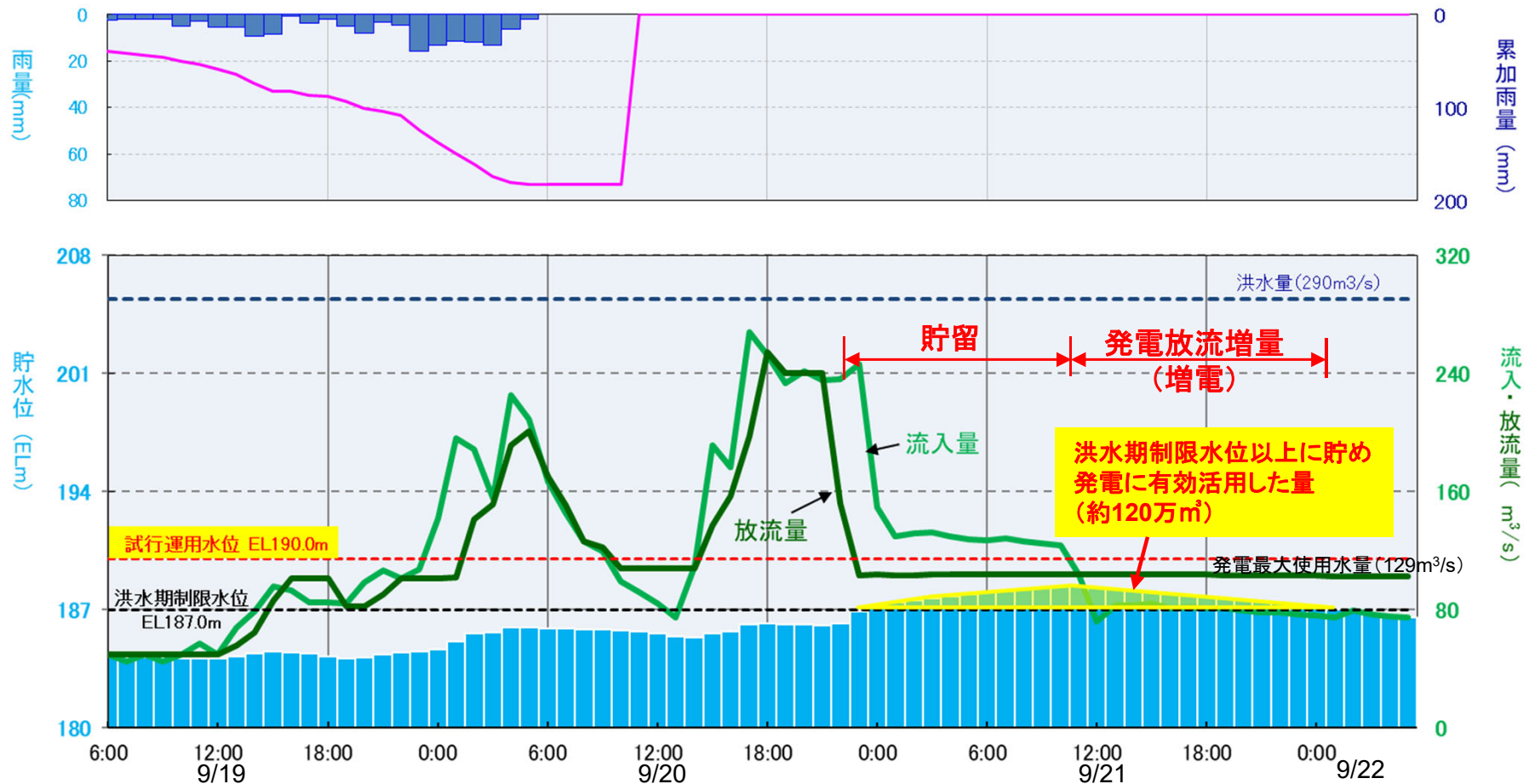
9月19日出水後の横山ダムにおける発電に資する放流活用操作

- 令和4年9月20日23時から洪水期制限水位以上に貯留を開始し、9月21日10時頃貯留完了。
- その後、発電放流にて水位低下操作を実施し、9月22日1時頃洪水期制限水位以下に低下。



よこやまだむ 横山ダム
きそがわすいけい 木曾川水系
いびがわ 揖斐川

ダム諸量グラフ

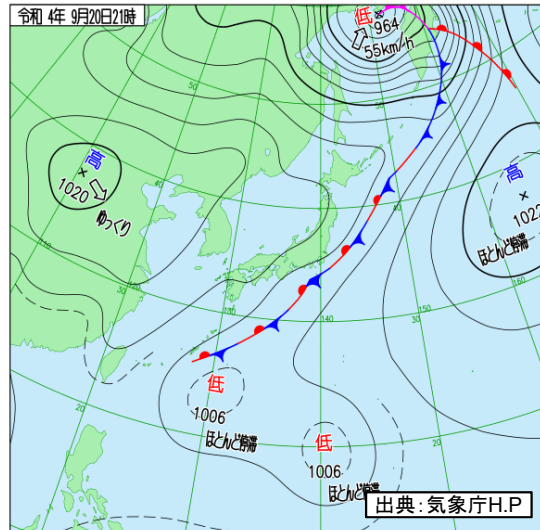


- ・今回の操作により、通常の場合と比較して約120万m³の水を発電に有効利用。
- ・その結果、約160MWhの増電となり、これは一般家庭約600戸が1ヶ月に消費する電力量に相当。

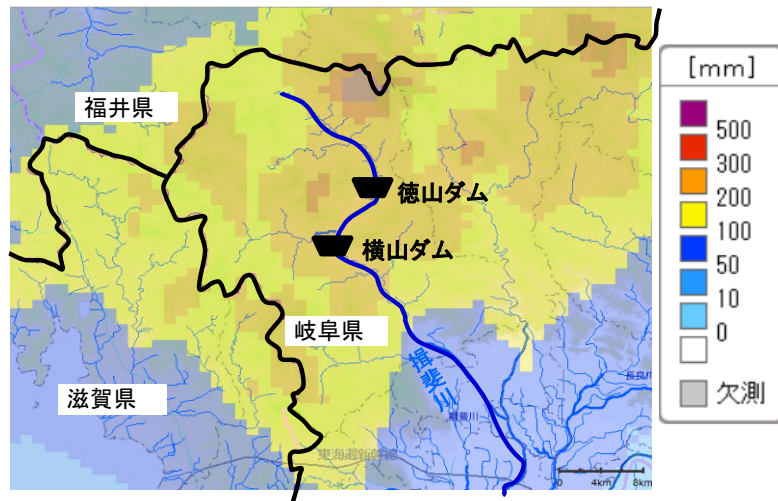
(参考)9月19日出水と横山ダム・徳山ダムの対応

○9月19日から20日にかけて、前線に向かって湿った空気が流れ込んだ影響により、大気の状態が不安定となり、揖斐川の上流域を中心に局地的に強い降雨となった。
 ○この降雨により、徳山ダムでは流入量が洪水量に達し防災操作を実施した。

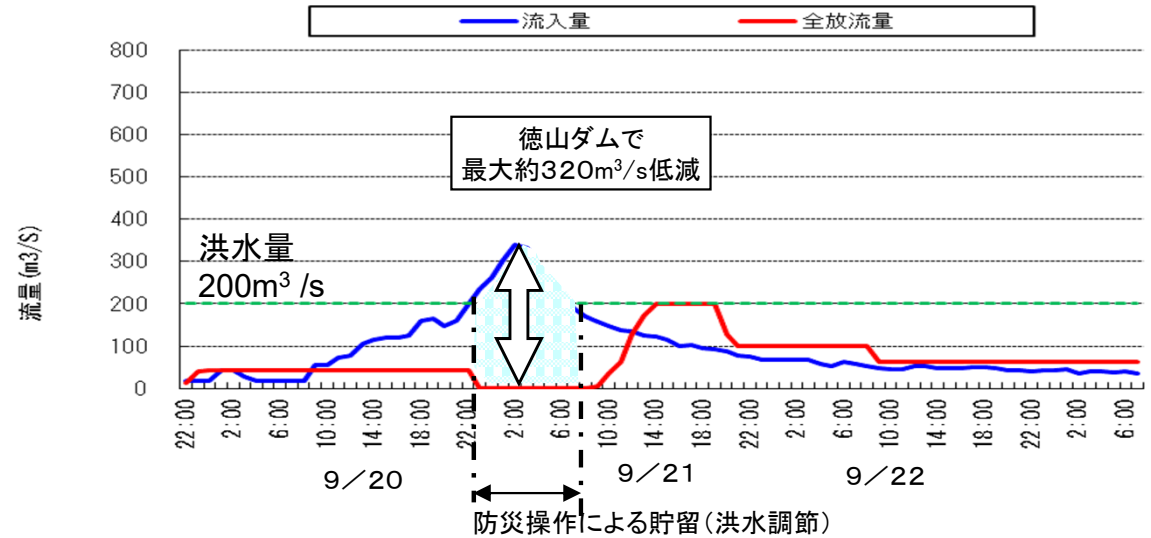
○天気図(9月20日21時)



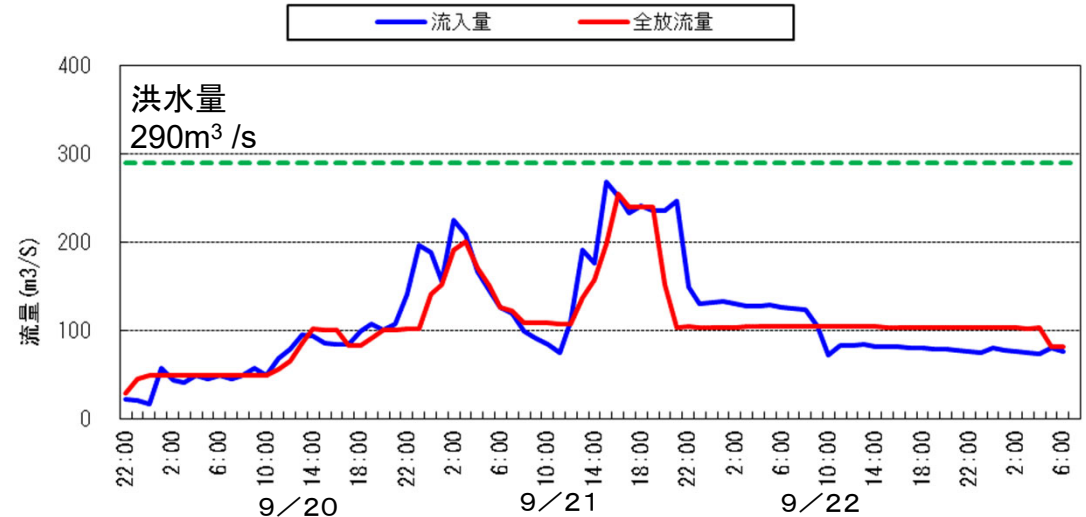
○レーダ累積雨量(9月18日0時~9月20日5時)



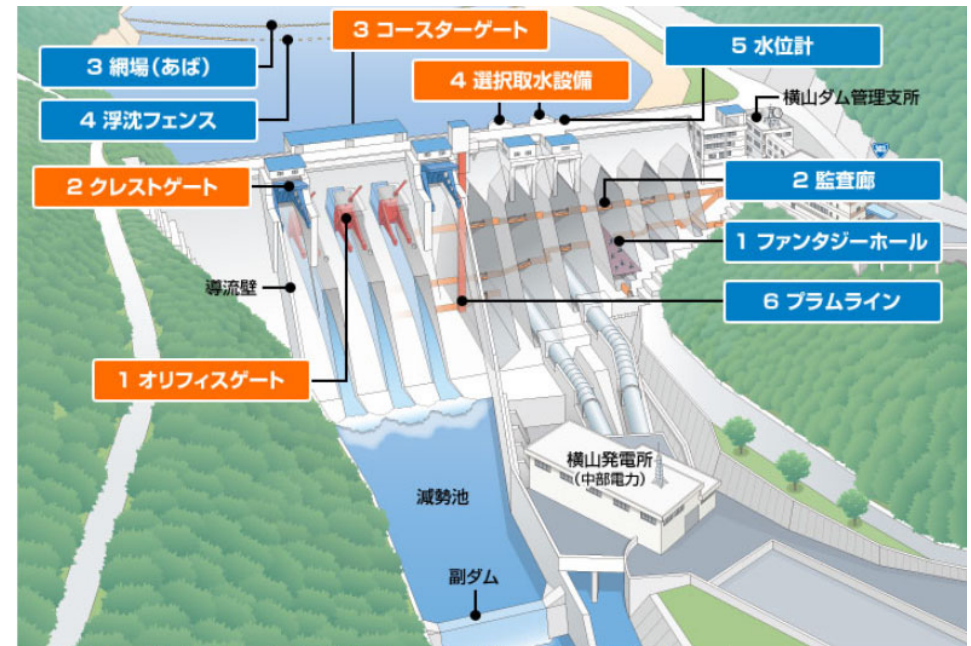
○徳山ダム操作状況



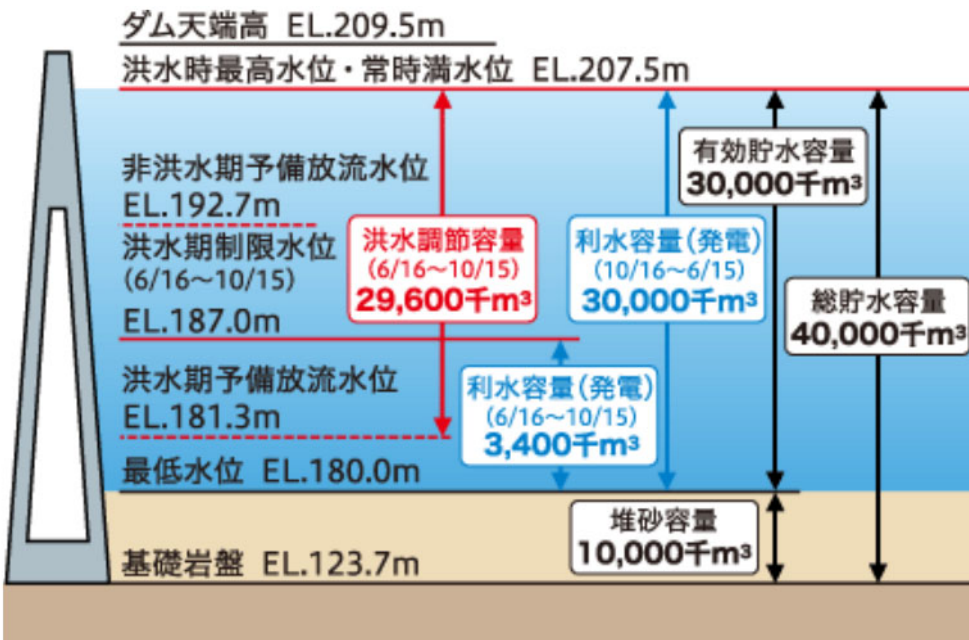
○横山ダム操作状況



(参考)横山ダム概要



* 青い名称はダムを管理するための設備、オレンジの名称は放流するための設備です。

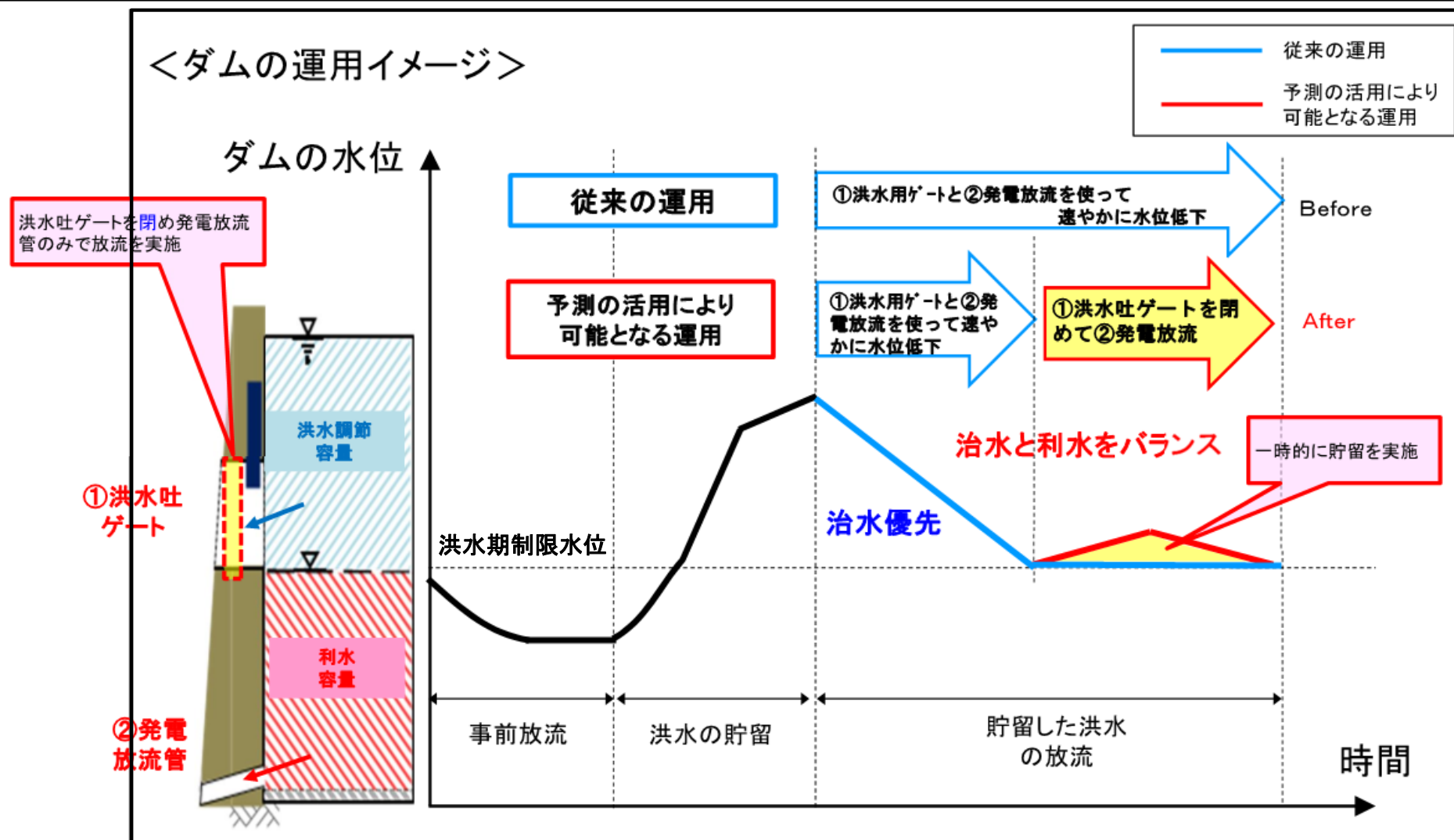


横山発電所概要

- 出力
 - 認可最大出力: 70000kW
 - 常時出力: 800kW
 - 年間発電電力量: 130000MWH(1億3千万キロワット時)
- 水量
 - 最大使用水量: 129.00立方メートル毎秒
- 落差
 - 有効落差: 63.30m

<参考>横山ダムにおける発電に資する放流活用操作(洪水後の貯留水を活用)

- 従来どおり洪水調節を行った後に、洪水調節容量を回復するために洪水吐ゲートから放流を行い制限水位程度まで低下させる。
- この段階で、最新の気象予測技術を活用し、洪水に支障のないと判断された場合には、洪水吐ゲートを閉めて発電放流のみに切り換える。
- これにより、洪水調節容量の一部に貯留するなど、可能な限り発電に活用しながら放流する



<参考>横山ダムにおける発電に資する放流活用操作(洪水とならない出水を活用)

- 従来はダムへの流入量が洪水量に達しない出水において、流入量が発電の最大放流量を上回った場合には、ダムの貯水位を制限水位以下に維持するため洪水吐ゲートから放流を実施。
- 試行では、最新の気象予測技術を活用し、洪水に支障がないと判断された場合には、洪水吐ゲートによる放流は行わず発電のみによる放流を行い、洪水対応に支障のない範囲で制限水位以上の洪水調節容量の一部に貯留するなど、可能な限り発電に活用する。

